平成２４年４月２日発行
九州運輸局交通環境部消費者行政・情報課　　第６号

交通バリアフリー通信

目次

◎旅客施設・車両等のバリアフリー化進捗状況　・・・１
◎平成２３年度 九州運輸局「環境保全及び交通バリアフリー等関係表彰　・・・３
◎平成２３年度「バリアフリー教室等」開催状況
・バリアフリー教室INかごしま　・・・５
・バリアフリー教室IN香椎小学校（福岡市）　・・・７
・バリアフリー教室IN小森野小学校（久留米市）　・・・９
・職員を対象とした講習会（福岡市）　・・・１１
・バリアフリー講習会IN天神南駅　・・・１２
・バリアフリー教室IN阿蘇　・・・１４
◎九州バリアフリー等連絡会議（第２回）　・・・１５
◎脊髄損傷連合会による博多駅周辺バリアフリー調査　・・・１７
◎平成２３年度 ユニバーサル社会に対応した歩行者支援事業の選定について　・・・１８
◎平成２２年度版　消費者行政レポート　・・・１９

旅客施設・車両等のバリアフリー化進捗状況について

九州運輸局は、交通事業者から提出された移動等円滑化実績等報告書を基に管内の旅客施設や車両等におけるバリアフリー化の推進状況をまとめました。

基本方針における達成目標に対する九州の交通バリアフリー化の状況を見ますと、特定旅客施設(1日当たりの平均的な利用者数5000人以上の旅客施設)全てに原則として、①段差の解消（ＥＶ、ＥＳ等の設置）、②身体障害者誘導用ブロックの整備、③身体障害者用トイレの設置等のバリアフリー化を実施することとなっていますが、平成23年3月31日現在、旅客施設について、①段差の解消86.0%(全国85.5%)、②身体障害者誘導用ブロックの整備92.0%(97.1%)③身体障害者用トイレの設置等56.6%(83.2%)でありました。

車両等の全国におけるバリアフリー化率の整備目標は、①鉄軌道車両（約50%）、②ノンステップバス(約30%)、③福祉タクシー(約18,000台)、④旅客船(約50%)、⑤航空機(約65%)の導入となっていますが、①鉄・軌道車両724両28.9%（49.5%）、②バリアフリー対応バス2,430両29.1%(49.4%)、③福祉タクー963両(12,256両)、④旅客船29隻11.8%（18.1%）、⑤航空機40機100%（81.4%）と、目標数値には、ほど遠い状態ですが、各事業者の努力により、着実にバリアフリー化に向けて進展しています。

また、平成23年3月31日、基本方針の一部改正が行われ、「スパイラルアップ」の考えの下、バリアフリー対象施設の拡大・深化、または、新しい整備目標が設定されるなど，さらにバリアフリー化の促進が期待されます。

なお、世界のどこの国も経験した事のない本格的な高齢化社会を迎えつつある中、ハード面だけでのバリアフリーの推進には限界があり、今後、地域の実情に即したハード面とソフト面での柔軟な対応により、一体的・総合的なバリアフリーの推進が課題となっています。

旅客施設のバリアフリー化の推移

		平成21年	平成22年	平成23年
旅客施設	鉄軌道駅	119	118	131
	バスターミナル	12	12	12
	空港ターミナル	6	6	6
	旅客船ターミナル	3	1	1
	合　計	140	137	150
段差の解消	鉄軌道駅	85	92	112
	バスターミナル	11	11	11
	空港ターミナル	5	5	5
	旅客船ターミナル	3	1	1
	合　計	104	109	129
	%	74.3	79.6	86.0
視覚障害者用誘導ブロック	鉄軌道駅	85	89	121
	バスターミナル	9	10	10
	空港ターミナル	6	6	6
	旅客船ターミナル	3	1	1
	合　計	103	106	138
	%	73.6	77.4	92.0
トイレの設置施設	鉄軌道駅	106	106	117
	バスターミナル	12	12	12
	空港ターミナル	6	6	6
	旅客船ターミナル	3	1	1
	合　計	127	125	136
多目的トイレの設置	鉄軌道駅	60	72	63
	バスターミナル	8	7	7
	空港ターミナル	6	6	6
	旅客船ターミナル	1	1	1
	合　計	75	86	77
	%	59.1	68.8	56.6

旅客施設・車両等のバリアフリー化進捗状況（平成２３年３月３１日現在）

● 鉄軌道車両

都道府県	車両等の総数	移動円滑化基準適合数	割合（%）
九州	2,509	724	28.9
全国	52,871	26,180	49.5

● バス車両

都道府県	車両等の総数	低床バス	割合	ノンステップバス	割合
		移動円滑化基準適合数	（%）	移動円滑化基準適合数	（%）
福岡県	3,033	1,382	45.6	51	1.7
佐賀県	322	105	32.6	27	8.4
長崎県	1,576	374	23.7	129	8.2
熊本県	1,033	198	19.2	127	12.3
大分県	684	114	16.7	23	3.4
宮崎県	406	102	25.1	44	10.8
鹿児島県	1,291	155	12.0	62	4.8
九州	8,345	2,430	29.1	463	5.5
全国	59,195	29,216	49.4	16,534	27.9

● タクシー車両（福祉タクシー）

都道府県	寝台専用	車いす専用	兼用	回転シート等	計
福岡県	23 (0)	234 (83)	33 (0)	2 (0)	292 (83)
佐賀県	2 (0)	37 (24)	12 (0)	1 (0)	52 (24)
長崎県	3 (0)	95 (55)	19 (1)	3 (2)	120 (58)
熊本県	2 (0)	107 (72)	14 (0)	4 (2)	127 (74)
大分県	2 (0)	80 (53)	50 (0)	1 (1)	133 (54)
宮崎県	8 (1)	87 (57)	12 (0)	0 (0)	107 (58)
鹿児島県	5 (0)	96 (54)	26 (0)	5 (3)	132 (57)
九州	45 (1)	736 (398)	166 (1)	16 (8)	963 (408)
全国					12,256 0

＊（　　）内は軽自動車で、内数

● 船舶

都道府県	車両等の総数	移動円滑化基準適合数	割合（%）
九州	246	29	11.8
全国	753	136	18.1

● 航空機

都道府県	車両等の総数	移動円滑化基準適合数	割合（%）
九州	40	40	100.0
全国	499	406	81.4

平成２３年度 九州運輸局「環境保全及び交通バリアフリー等関係表彰」

平成２３年１１月２５日（金）、ハイアット・リージェンシー福岡において「鹿児島市 船舶部　事業管理者 船舶部長」に対して、環境保全及び交通バリアフリーの活動に顕著な功績があったとして表彰しました。

九州運輸局では、所管する陸上・海上交通、観光、倉庫、港湾運送、造船等の各分野において、環境保全及び交通バリアフリーの活動に顕著な功績がある事業者等に対し、特に他の模範となる取り組みを広く普及し奨励するため顕彰しています。

今回、船舶事業者として、ＣＯ2の削減や省エネ化を実現するなど環境性能にも優れ併せて、エレベーターを配置し、段差の解消や多目的トイレの設置など、より高度なバリアフリー船として、新造フェリー「桜島丸：1330トン」（通称：サクラエンジェル）の桜島～鹿児島航路への就航が高く評価されました。

表彰式の後、「鹿児島市の環境施策」について、省エネ対策の取り組み事例の紹介をして頂きました。

**安藤次長（代理）より表彰状を授与される
鹿児島市　船舶部　様です**

鹿児島市の環境施策について、省エネ対策等の取り組み事例を紹介する鹿児島市 船舶部 船舶運航課長の萩原様です。

平成２３年度 九州運輸局「環境保全及び交通バリアフリー等関係表彰」（交通バリアフリー部門）

平成２４年２月１５日（水）、福岡第二合同庁舎 共用会議室において、「博多駅地下歩行者ネットワーク充実強化検討会」に対して、交通バリアフリーの活動に顕著な功績があったとして表彰しました。

例年６月に表彰式を執り行っていましたが、バリアフリーの活動をより広く知っていただくために、今回は、バリアフリーリーダーをはじめ、地方自治体、福祉関係団体等で組織してます九州バリアフリー等連絡会議出席者のもと、表彰式を執り行いました。

表彰式に先立ち、受賞者を代表して事務局の福岡市住宅都市局 都市づくり推進部 都市再生課の田川様より取り組み等について、ご紹介いただきました。

当会は、１９年１０月に発足し、２３年３月の新幹線全線開業に向けて、博多駅の歩行者空間において、わかりやすい歩行者誘導を実現するため、博多駅に接続する全ての施設管理者の官民１５団体で構成された任意団体で、約４年間で延べ１８回の検討会が重ねられ、高齢者や障害者等の移動の利便性向上を図るため、博多駅を中心とした各施設において、連続性のある統一されたデザインの案内誘導サインの整備などの取り組みについてご紹介頂きました。

その後、玉木九州運輸局長より会を代表して、博多ステーションビルの森田様に表彰状が授与され、引き続き、玉木局長を囲んでの記念撮影を行いました。

同会は、今後も定期的（毎年１０月）に見直しを図り利用者に新しい情報提供等を行うこととしています。

このような取り組みは、バリアフリー化の推進に大きく貢献するものであります。

取り組みについて紹介する福岡市住宅都市局 都市づくり推進部 都市再生課の田川様です。

玉木九州運輸局長（前列右より２人目）と 受賞された各代表者の皆様です

「バリアフリー教室INかごしま」

九州運輸局 鹿児島運輸支局において、支局主催としては初めてとなる、「バリアフリー教室 in かごしま」 を７月３１日（日）、鹿児島県社会福祉協議会との共催で、かごしま県民交流センターにおいて開催しました。

本教室は、高齢者，障害者等の疑似・介助体験等を通じて、バリアフリーについて理解を深めるとともに、ボランティアに関する意識を深め、誰もが「お手伝いしましょうか」と自然に快くサポートできるソフト面のバリアフリー（心のバリアフリー）を進めようとするものです。

今回の教室は、公募による親子（幼稚園児～中学生・福祉作業所）など１３組４６名の参加者が、手足には重りを付け、目には見えにくいメガネを掛けて、県民交流センター施設内や鹿児島市交通局の御協力によりノンステップバスを使っての高齢者擬似体験や車椅子介助体験などをしていただきました。

当日は、テレビ局や新聞社などマスコミ関係者の取材もあり、記者の方も同じ体験をされていました。

今回、体験していただいた親子へのアンケートの結果、保護者などの皆様方からは、

① 体の不自由さは、見て想像するのと、実際、体験してみてずいぶん違った。
② 体の不自由な方と節する機会があったら、優しい気持ちで節するよう心がけたい。
③ お年寄りの日常生活が、自分たちでは何でもないことでも、一つ一つの行動がすごく大変であることが体を伝って感じました。
④ これが年老いていく怖さだと実感し、実生活に役立ちそうで良い体験でした。
⑤ 実際、車椅子に座る側、介助する側の双方を体験しましたが、座っているときは、介助者からの声掛けがあると、とても安心感がありました。また、介助者としては、地面の凹凸や地面が柔らかい等により小さな段差や坂があると、なかなか前に進めなくて操作が大変だった。
⑥ 車椅子がスムーズに利用できる最近のバスの進にびっくりした。
⑦ バリアフリーの大切さがよく分かりました。

また、子ども達からは、

① 高齢者と車椅子に乗る人のことが分かって、良い体験ができました。
② 普段体験できないことを体験できた。兄は、こういうことをたくさん経験していたということがすごいと思った。高齢者擬似体験の後、メガネをはずしてみると、いろんなものが、きれいに見えた。「目がみえるってすごいなあ-」と思いました。
③ 車椅子の体験では、少しの段差でも動けなくなり大変でした。これから、車椅子の人を見かけたら、手伝ってあげようと思います。また、高齢者体験でも、とても不自由で大変でした。お年寄りにやさしくしようと思います。
④ お年寄りの体験に参加して、こんなに大変とは思いませんでした。これから困っているお年寄りを見かけたらお手伝いしたいと思います。自分がこんなに幸せなことがあたりまえだと思っていました。
⑤ 私たちは、ほんの少しの時間での体験で、きつい、腰が痛い等の大変さを感じましたが、毎日、感じているおじいちゃん・おばあちゃんは、つらいだろうし、すごいなあーと思いました。
これから、困っている人を見かけたら進んでお手伝いしたいと思います。とてもためになるいい体験でした。
⑥ 車椅子の体験では、見た目では、簡単そうに見えるけど、実際体験すると難しかった。動く動作をしっかり身につけないと危険であることを学んだ。
⑦ 私は、車椅子でバスに乗ろうとしている場面に遭遇したことは、ありませんが、運転手さんに「バスに乗せて下さい」と言いにくいと思いました。一番私にできることは、障害のある方が「助けて欲しい」と一声かけることができる雰囲気作りが大切だと思いました。

このほかの参加者の皆様からも同じような思いやりを感じる感想が寄せられ、「心のバリアフリー」の浸透が感じられました。

今回の「バリアフリー教室inかごしま」の経験を生かして、さらに周りの一人でも多くの方へ思いやりの心「心のバリアフリー」の輪を広げて頂ければ幸いです。

「バリアフリー教室IN鹿児島」の開催状況

階段を使っての高齢者の擬似体験模様です。
降りる場合、介助者は下方から介助します。

ノンステップバスを使っての
高齢者の擬似体験模様です。

見えにくいメガネ（白内障等）をかけて、
いろいろな箸を使っての体験です。

車椅子を使ってノンステップバスの乗降等
の体験模様です。

高齢者擬似体験班の終了後の集合写真です。

車いす介助体験班の終了後の集合写真です。

「バリアフリー教室IN香椎小学校」

九州運輸局は、九州地方整備局・福岡市社会福祉協議会・福岡市東区社会福祉協議会との共催により、１１月８日（火）に、福岡市東区の香椎小学校４年生１１１名を対象としたバリアフリー教室を開催しました。

バリアフリー施策の促進については、ハード面だけでなく、ソフト面における「心のバリアフリー」の促進が求められています。
さらに、子どもの時から、バリアフリーの心を持って行動することの重要性を知ることが望まれています。このような観点から関係機関と連携し、子ども達等を対象とした「バリアフリー教室」を開催しています。

当日は、校内及び西日本鉄道(株)の御協力によりワンステップバス・ノンステップバス等を使っての視覚障害者体験及びクラス代表による車いす介助体験を行いました。

体験終了後、各クラスを代表しての感想が述べられましたが、アイマスクをしての視覚障害者体験では、段差やバスの乗り降りでどのくらいの高低差があるのか不安で怖かった。また、目の不自由な方の大変さを感じた。今度、困った人を見かけたら今日の体験を生かしてお手伝いしたいなど、子ども達の優しく思いやりのある感想を聞くことができ「バリアフリー教室」本来の目的である「心のバリアフリー」の重要性を感じて頂けたのではないかと思いました。
また、今回のバリアフリー教室に参加された皆さんには、アンケートにも御協力を戴きました。

アンケートの結果、（項目抜粋）

１．この教室は、どれくらい役に立ちましたか？
① とても役に立った。② 役に立った。・・・・・・・・・・・・・・・・・８８．５％

３．体の不自由な方の気持になって考えることが
できましたか？
① 考えることができた。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９６．２％

４．お手伝いできそうなものがありましたか？
①お手伝いできるものがあった。・・・・・・・・・・・・・・・・・・８９．５％

５．今後、体の不自由な方やお年寄りの方などが困っているところを見かけたら
「お手伝いしましょうか」と声かけができますか？
①声をかけられる。②できるだけ声をかるようにしたい。・・・・・・・９２．４％

また、各個人からの意見・感想を見ますと、

① 障害者は、かわいそうじゃなくて、少し不便なだけで、一つの個性を持った人間である。
② 暗くて不安なため介助者の誘導（声掛け）がないと前に進めない。
③ 体の不自由な方が車椅子で乗れる便利なノンステップバスがあることに驚いた、また、台数を増やして欲しい
④ 今回の視覚障害者体験で目の不自由な方の大変さ・怖さが分かった。

以上、アンケート結果等の高い数値から見ても「心のバリアフリー」に対する関心度や障害者等への理解、おもいやりの心の高いことが伺えました。
これから迎える高齢化社会を迎えつつある中、高齢者や体の不自由な方に対し、経験を生し勇気を持って、実行して欲しいと思います。

「バリアフリー教室IN香椎小学校」の体験等の状況

視覚障害者の介助についての指導状況です。
介助者の肘を持って、介助者は声を掛けて

福岡市東区社会福祉協議会 木原次長による
車椅子の使い方についての指導状況です。

ワンステップバスを使っての視覚障害者の
介助体験の模様です。

ノンステップバスを使っての車椅子による
乗降体験の模様です。

指導のとおり視覚障害者は、介助者の肘を
持って移動しています。

ノンステップバス内で車椅子の固定について、
西鉄バス担当者から説明を受けています。

「バリアフリー教室in小森野小学校（九州技術事務所）」

九州地方整備局（九州技術事務所）及び九州運輸局の共催により、１１月２９日（火）、久留米市社会福祉協議会の協力の下、久留米市の九州地方整備局九州技術事務所において、久留米市小森野小学校４年生６０名によるバリアフリー教室を開催しました。
当日は、郊外での体験ということで、心配されていました天気も絶好の秋晴を思わせるような好天に恵まれました。
体験学習が行われました九州技術事務所には、私たちが普段移動に利用している歩道・階段・横断歩道等が整備され、点字ブロックの敷設はもちろん、さらに街中でも見られる高さの違う数種類の段差や歩道も幅員の広い場所・狭い場所があり、また、縦勾配・横勾配の構造が設けられるなど、一度でバリアフリー教室のあらゆる状況を体験することができるすばらしい施設です。
まず、九州技術事務所の担当官より、バリアフリー体験の目的や建物及び交通バリアフリー化についての講話が行われ、次に久留米市社会福祉協議会による体の不自由な方への「心のバリアフリー」の必要性等について講話がありました。

講話が終わると、本日の主目的である構外での体験学習の車椅子体験と白杖体験についての留意事項等の説明を受けた後、それぞれ、白杖体験と車椅子体験に分かれて体験することになりました。
白杖体験では、介助者が絶対やってはいけないこと、「押さない・引っ張らない」等の留意点の説明を受けた後、２人１組になって、１人がアイマスクで目を覆い、白杖を持ち、もう一方の手で介助者の肩や腕を持ち、白杖を左右に振りながら歩道の誘導ブロック等を確認しながら障害物がないか進んでいましたが、誘導や声掛けが無かったため違う方向へ進もうとしたり、電柱などの障害物に接触しそうになったりと、介助者の誘導を受けながら、不安そうな足取りで恐る恐る進んでいました。
一方、車椅子体験でも、乗り方や、体験で留意する点として「怪我したりするので、ふざけないこと」、「特に急な下り坂では、座っている人が落ちる可能性があるので、後ろ向きで進む」などの説明を受けて、２人１組になって、自分で後輪のハンドリムを回しながらいろんな構造の体験コースを周り、自分一人では進めないところは、介助者の手助けにより、高い段差や勾配のある坂道を上っていました。中には、要領が分かり慣れてくると高い段差や急な坂道も一人で進んでいました。
最後に、久留米市社会福祉協議会の方より、体の不自由な方に対する感じ方について、身体障害者等は、かわいそうではなくて「皆さんより少し不便なだけで、不幸でもない、」今回の体験を通して、体の不自由な方の気持を少しでも理解して頂きたい。
とのお話しで「バリアフリー教室」を終了しました。

今回、体験した子ども達からの感想文が寄せられましたので、一部をご紹介させていただきます。
Ａさん
今日体験したことで、一番心に残ったことは、はくじょう体験です。アイマスクを付けて，歩くのは大変でした。でも、1人がサポートしてくれると、普通のようにちょっとずつ歩けました。この体験をいかして不自由な人を助けてあげたいです。
Ｂくん
ぼくの一番心に残ったのは、はくじょう体験です。アイマスクで目をかくすと何も見えないのでこわかったです。でも、点字ブロックやつえがあったので、だいじょうぶでした。
ぼくは、最初は、点字ブロックの役わりを知りませんでした。でも、はくじょう体験をしていると、すごく大切な役わりをしていることが、分かりました。
車いす体験では、すごく、うでがいたくなりました。とくに坂では、なかなか先へ進めませんでした。だんさの所は、上がるのがむずかしかったです。
この体験をして、しょうがいを持っている人の気持ちや努力をしていることが分かりました。
また、せつびが整っていてもかいじょ者の声かけも必要だと分かりました。
この体験を通して自分から勇気を持って、声をかけたほうが安心できることがわかりました。

以上の感想から今回の体験により、体の不自由な方への思いやりの心「心のバリアフリー」を感じ取っていただいたと思いました。

今回の「バリアフリー教室in小森野小学校（九州技術事務所）」開催について、皆様のご協力により事故等もなく無事終了することができました。
ありがとうございました。

「バリアフリー教室IN小森野小学校（九州技術事務所）」での体験状況

職員を対象としたバリアフリー講習会

九州運輸局におきましては、「心のバリアフリー」の促進のため、障害者等に対する理解を深めていただくとともに、バリアフリーに関する意識を高め、併せて、今後の行政の遂行に役立てていただくために職員を対象とした「バリアフー講習会」を開催しています。

今年度も、九州地方整備局との共催により、特に障害者の福祉についての関心と正しい理解を深めていただくための「障害者週間」に併せ、平成２３年１２月５日、（月）合同庁舎新館７階の海技試験場におきまして、両局の職員４５名の参加により「バリアフリー講習会」を開催しました。

今年度の講習会には、九州バリアフリー等連絡会議の熊本県バリアフリーリーダーに就任していただいております、九州看護福祉大学院の西　島　衛　治（にしじま　えいじ）教授に、「脳の機能障害を配慮したバリアフリー」についてと題して、ご講演いただきました。

講演では、身体障害以外の脳機能障害にも、知的障害・外傷性高次脳機能障害（交通事故等）・脳卒中による後遺症・発達障害（自閉症・ＬＤ・ＡＤＨＤ）・認知症と多種多様な障害があり、主に発達障害の自閉症をはじめとする広汎性発達障害者の特性への対応と建築的配慮について、自閉症の方への対応については、多種多様で、その環境において、よりよい対応をしないとパニック状態になるなど大変参考になる講演でした。

今回、初めてのテーマでもあり、西島教授の体験や経験談等を交えた話しに聴講者は真剣なまなざしで聞いていました。

自閉症の特性等について講演中の西島教授

聴講中の整備局・運輸局職員

『バリアフリー講習会ｉｎ天神南駅』
～地下鉄駅務員が学ぶ盲導犬の特性と視覚障がい者疑似体験～

九州運輸局では、平成２４年１月１２日（木）、盲導犬の特性や視覚障がい者等の疑似体験やその介助体験を行うことで、交通事業者がバリアフリーに理解を深めるとともに、その知識と技能の習得を目的とする、『地下鉄駅務員向けバリアフリー講習会』を福岡市営地下鉄天神南駅構内で開催しました。

今回の教室は、視覚障がい者が使用する盲導犬が地下鉄車内で落書きされると言う事態を受け、乗客への啓発はもちろんの事ながら、駅務を行う職員へ盲導犬使用者や視覚障がい者がいた場合の声かけや気づきを学んでもらうべく当局・福岡市交通局・(公財)九州盲導犬協会の三機関で開催したもので、地下鉄駅務員２０名が参加しました。

開講式の後、(公財)九州盲導犬協会訓練センター長の児嶋氏により、盲導犬の特性や普及の現状の講話があり、続いて南歩行指導員から視覚障がい者の目からみえる世界も病気により見え方に違いがあるとの説明がありました。

その後、アイマスク歩行体験及び介助の方法について事前学習を行い、駅構内の通路を歩いたり、階段を上ってみたり、電車の乗降体験と施設内での様々な擬似体験および介助体験を行いました。
視覚障害者疑似体験では、今まで見えていた物が見えなくなる事に不安や戸惑いを隠せない様子でしたが、中には研修や現に構内での案内をされているためか、介助の声かけがすばらしい方もいました。

また、各体験を行うポイントでは、講師である九州盲導犬協会児嶋センター長や歩行指導員の南さんより、問題点や注意点などを受講者に説明して頂きました。

最後は、盲導犬訓練卒業を間近に控えたワッフルくん（２才）によるデモンストレーションがあり、講習生の中から代表で実地歩行をしてもらいました。周りの講習生も興味津々のようでした。
実地歩行を体験した講習生からは「初めて歩いたけど速度もよく歩きやすい。」、「ちゃんと障害物の前で止まるのですね。」との感想がありました。

受講した駅務員からは、「わかっていたつもりでわかっていなかった事が多くあった。今回の研修経験を忘れないように今後の業務に活かし取り組んでいきたい。」との発言がありました。

最後に、児嶋講師より盲導犬を使用しているから大丈夫とは思わないで、困っているようでしたら進んで「なにかおこまりでしょうか?と声かけをして下さい」とお話がありました。

今後も九州運輸局では、小学生を初め、交通事業者等も対象とした心のバリアフリーの推進に努めて参ります。

地下鉄駅務員が学ぶ盲導犬の特性と視覚障がい者疑似体験状況

盲導犬の特性と普及現状について、講演する
（公財）九州盲導犬協会の児島グループ長

障害者の補助制度や目の疾患の種類によって
見え方が違う等について、説明する南指導員

階段の昇降についての介助体験の指導状況

地下鉄車両への乗降体験の状況

椅子へ着座する場合の指導状況です。
（手を取って位置を教えてやると安心です）

実際、盲導犬を使っての歩行体験です。

「バリアフリー教室ＩＮ阿蘇」
（旅館・ホテル等の従業員を対象としたバリアフリー講習会）

九州運輸局では、平成２４年２月２２日（水）、阿蘇市（阿蘇の司 ビラパークホテル）において高齢者・障害者など、あらゆる人が利用する旅館・ ホテル等の従業員を対象とした「バリアフリー教室」を（財）熊本さわやか長寿財団 （熊本県介護実習・普及センター）との共催により開催しました。

さて、これまでの取組みにより旅館やホテル等のバリアフリー化は、進展しているところですが、施設整備だけでなく周りの人々がお手伝いしやすい環境づくり（ソフト面のバリアフリー化）を進めていくことも重要です。

今回は、阿蘇温泉観光旅館協同組合及び阿蘇市観光協会加盟の旅館等の従業員等など、２２名の参加により高齢者・障害者等の疑似・介助体験等を通じてバリアフリーについての理解を深めるとともにボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者・障害者等に対し「お手伝いしましょうか」とごく自然に声をかけてサポートできる「心のバリアフリー」社会の実現を目指す取り組みとして熊本県介護実習・普及センターの指導の下、参加者に高齢者・障害者等の疑似・介助体験等をしていただきました。

その後、観光地におけるバリアフリー先進地の取組みとして、「佐賀嬉野バリアフリー ツアーセンター」の嶋原事務局長様に嬉野温泉での取り組みについて、ご講演頂きました。

なお、講習会終了後のアンケートにおいて、高齢者擬似体験等については、「健常者として普段何ともない移動が高齢者や体の不自由な方には沢山のバリアーがあり、移動の大変さを実感し、お手伝いや声掛けの必要性を感じました。」また、講演については、「嬉野市の取り組みのすばらしさを感じ、おもてなしの大切さが重要であることがわかりました」などの感想がありました。

この度の開催にあたり、御協力、ご支援をいただきました関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます。

佐賀嬉野バリアフリーツアーセンターの取り組みについて講演する嶋原事務局長

車椅子の使い方を指導する熊本県介護実習普及センター職員

平成23年度（第2回）「九州バリアフリー等連絡会議」を開催

九州地方整備局及び九州運輸局は、平成２４年２月１５日、福岡第二合同庁舎において第２回「九州バリアフリー等連絡会議」を開催しました。
この会議は、高齢者、障がい者をはじめとする全ての人にとって、安全、快適に暮らしていける生活環境を実現するなど、バリアフリー化の推進について、地域に密着した情報の共有をはじめとした意見交換等を行うことで相互間の理解を深め、より良い協力関係を築き、連携してバリアフリー化の進展を目指すことを目的としています。
会議は、九州管内のバリアフリーリーダーをはじめ、高齢者・障がい者等の各団体、交通関係団体、交通事業者、自治体等からの３８名が参加し、国際医療福祉大学の齋場 三十四教授を座長に選出し会議が進められました。

九州運輸局より、全国バリアフリーネットワーク会議の報告及び九州管内におけるバリアフリーの現状と取り組み等について、また、今年度、バリアフリー化推進功労者大臣表彰を受賞した、佐賀県より「パーキングパーミット制度導入による先導的なまちづくり」についての取り組み紹介を始め、新しくご就任頂きました熊本県及び長崎県のバリアフリーリーダーにそれぞれの専門分野における取り組み、また、自治体・福祉団体・事業者等からの取り組みについての報告がありました。
なお、意見交換では、高齢者・障害者等に加え、妊婦さんや怪我人など一時的に体の不自由な方も利用できる専用駐車場の相互利用が進んでいるが、今まで止められていた人が利用できない、または、多目的トイレの利用においては、長時間使用されている場合、オストメイトの方達は急を要する場合があるので、普通のトイレにオストメイトを設置して頂ければ利用できる等、まだ検討して頂きたい課題がありますとの意見がありました。
また、「外見上わかりづらい聴覚障がい、発達障がい等、障がいにも多種多様であることを理解し、バリアを感じさせない支援体制を強化していただきたい。」など、高齢者やあらゆる障害者のニーズ等を多くの人に理解して頂いて、安全に移動できる環境整備について、ハード・ソフト両面において進めて頂きたい」などの意見が出されました。

最後に、この連絡会議で共有した情報を基に、関係機関で更に連携してバリアフリー化の実現に向けて取り組んでいくことが確認されました。

【会　議　の　概　要】

日　時	平成２４年２月１５日（水）１４時３０分～１６時
場　所	福岡第二合同庁舎　共用会議室（第２～第４）
議　事	①全国バリアフリーネットワーク会議の報告 ②九州運輸局におけるバリアフリー施策について ③九州地方整備局におけるバリアフリー施策について ④各県におけるバリアフリーの取り組み ⑤各団体等におけるバリアフリーの取り組み ⑥意見交換
出席者	各県バリアフリーリーダー、(社福)福岡県盲人協会、(社)福岡県脊髄損傷者連合会、(公社)福岡県精神障害者福祉会連合会、(社)福岡県手をつなぐ育成会、福岡県自閉症協会、(社)福岡県老人クラブ連合会、(社福)福岡県社会福祉協議会、九州旅客鉄道(株)、西日本鉄道(株)、九州鉄道協会、九州バス協会、九州旅客船協会連合会、福岡空港ビルディング(株)、各県、政令市バアフリー施策担当部署、大阪航空局福岡空港事務所（順不同）

「九州バリアフリー等連絡会議」会場の状況

会議進行役の国際医療福祉大学教授の齊場座長

行政からの施策の取り組み報告

バリアフリーリーダーからの取り組み報告

当事者の立場からの情報報告

博多駅及び周辺ビル並びに周辺道路のバリアフリー調査

（社）全国脊髄損傷者連合会福岡県支部及び福岡県脊椎損傷者連合会は、平成２３年１０月８日（日）に県内各支部の会員及び関係者並びにボランティア（福岡県・ＪＲ西日本・博多阪急・博多ターミナルビル・筑紫女学園大学生）等２８名の協力により、３月にリューアルした博多駅及び周辺商業ビル並びにバスセンター・周辺道路などを福岡県福祉のまちづくり条例及びバリアフリー法に沿って調査活動を実施しました。

調査は、バリアフリー新法の基本方針でもある「どこでも、だれでも、自由に使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方に基づき、すべての利用者に利用しやすい施設等のバリアフリー化の推進状況と、また、これから高齢者・身体障害者等の自立した日常生活及び社会生活において求められている安全、安心して利用、または移動できる施設等の環境が整備されているかの点検により、バリアフリー化のより一層の推進を図る目的のため、博多駅構内（コンコース・ホーム）・新博多駅ビル・商業ビル等のエレベーター・トイレ・通路・表示等にわたり調査が行われました。

今回の調査は、２００２年に実施して以来の調査となりましたが、法律の整備も進み、社会の理解と連合会の着実な活動が認められ、９年前に調査した時以上に博多駅周辺のハード面のバリアフリー化が進展していたとの感想でした。

しかし、体の不自由な方から見ると、まだハード・ソフト両面について、改善を必要とする新たな課題もありますとの意見もありました。

最後に今後も、引き続き関係機関と連携しつつ、この活動を通じ、少しでも「誰もが安心して使いやすい」ユニバーサルデザイン構造の普及した社会の実現へ向けて、継続的に取り組んで行きたいとのコメントがありました。

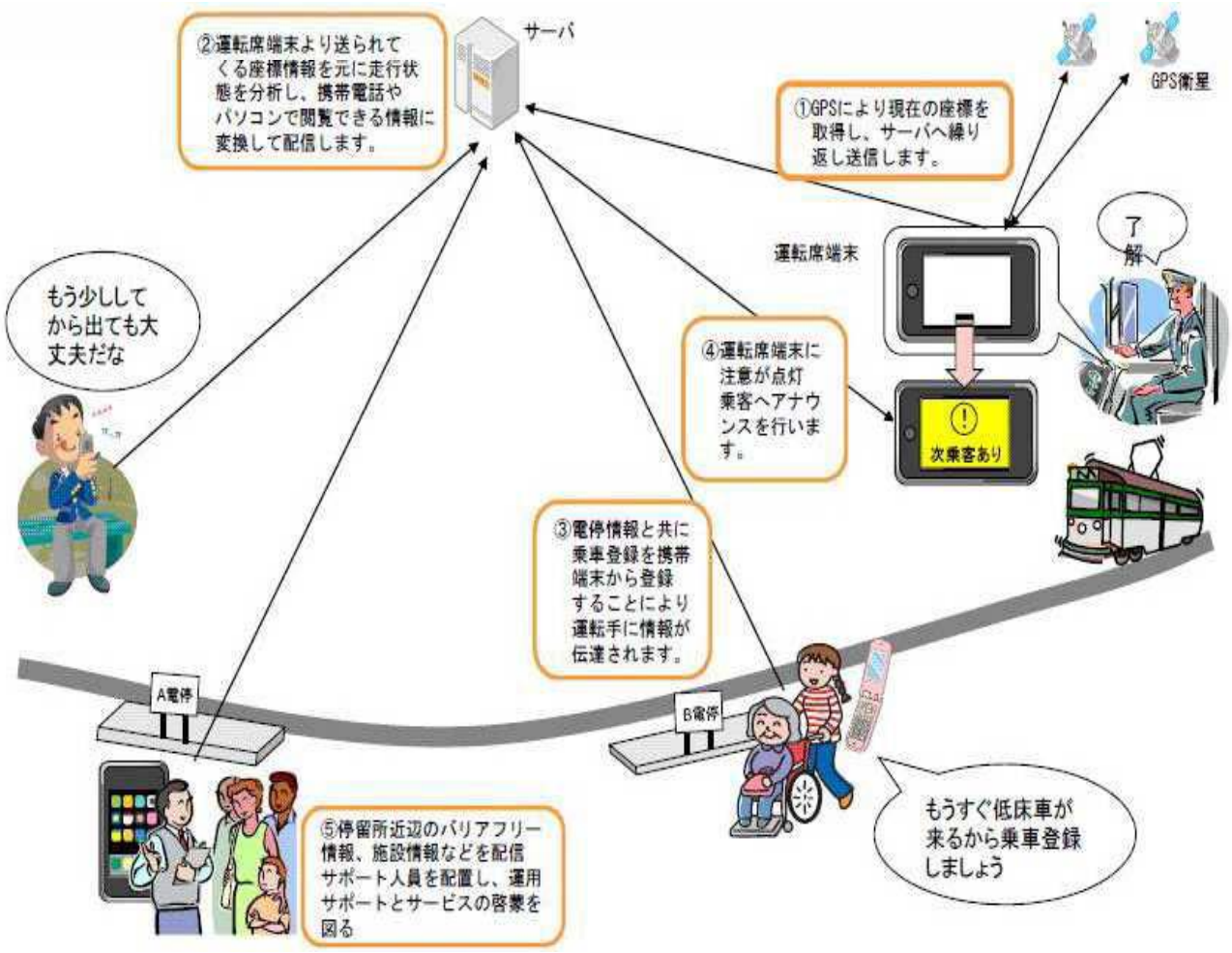
「平成２３年度 ユニバーサル社会に対応した歩行者支援に関する現地事業」の選定結果について

国土交通省においては、少子高齢化に向けて、平常時並びに災害時において、ICT（情報通信技術）等を活用し、高齢者・障害者等をはじめ、誰もが必要に応じ移動に関する情報を入手し、積極的に活動できるバリアフリー環境の構築をソフト面の施策から推進しているところです。

この一環として、「平成２３年度 ユニバーサル社会に対応した歩行者支援に関する現地事業」として、長崎市ＬＲＴナビゲーション推進協議会（協議会構成員：長崎県立大学・長崎電気軌道(株)・長崎県・長崎市など）が選定され、平成２３年１０月７日より長崎電気軌道(株)が市内を運行する路面電車のバリアフリーに対応した低床車の運行情報等の提供（位置・系統・方向）配信サービス「ドコネ」の一部実証実験が開始されました。

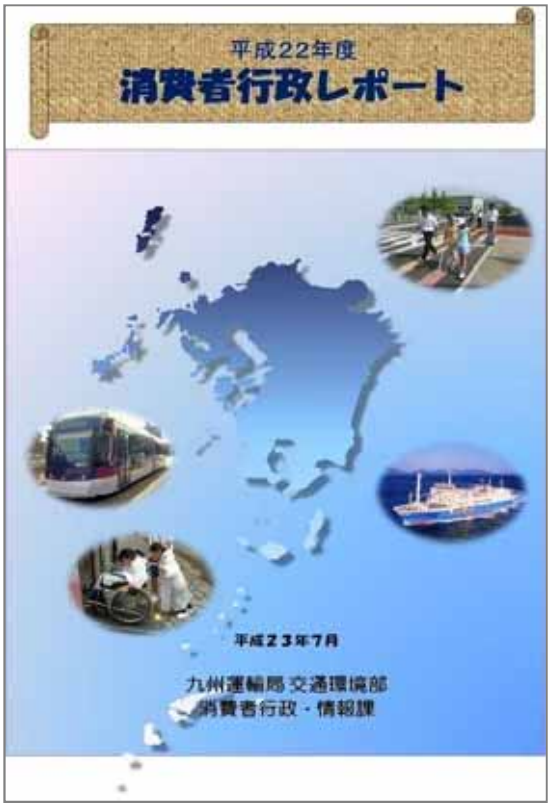
特長としては、利用者の携帯電話・スマートフォン等で全ての低床車の運行情報が把握することができるため、従来、低床車がいつ来るかの把握が困難な状況でしたが、「ドコネ」では、特に車いす利用者にとって、直近の在来車に乗るか、後続車の利用しやすい低床車両を待つかの判断ができる大変便利なサービスとなっています。

今後、さらに電停付近のバリア情報や観光情報、また、車椅子利用者が低床車へ乗車意思を送信できるサービスなどを順次開始していきます。



平成２２年度版　消費者行政レポート

九州運輸局では「交通消費者の利便性の向上」「交通バリアフリー化の推進」など、消費者行政の推進に積極的に取り組んでいます。国民の皆様に消費者行政についてご理解いただくため「消費者行政レポート」を取りまとめて公表しています。



Ⅰ　利用者ニーズの把握
　１．行政相談
　　（１）　行政相談の目的
　　（２）　平成22年度相談件数
　　（３）　相談事例
Ⅱ　バリアフリー化の推進
　１．バリアフリー新法に基づく移動円滑化基本構想策定状況
　２．バリアフリー化施設整備状況
　３．バリアフリー教室の開催
　４．バリアフリー推進セミナー
　５．九州バリアフリー等連絡会議
Ⅲ　交通関連行政相談窓口一覧

詳細は九州運輸局ＨＰをご覧ください。
（http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/koutuu/file04/report22.pdf ）

九州運輸局では、駅などの施設で、車椅子やアイマスクなどを使って高齢者や障害を持っておられる方の負担を疑似体験する「バリアフリー教室」を各地で開催するなど、「心のバリアフリー」の推進に向けた取り組みをしています。
今後、更なる「バリアフリーな社会」を推進するためには、地方自治体及び交通事業者が中心となって、本教室を開催していただくことが必要であると考えています。「単独での開催はノウハウがなく不安がある。」など、ご相談いただけますと、当課において可能な限りバックアップさせていただきます。お気軽にご相談していただきますよう、ご連絡をお待ちしています。

皆様方からのご意見・ご投稿をお待ちしています。
バリアフリーに関することなら何でも結構です。
九州運輸局交通環境部消費者行政・情報課まで、
メール又はＦＡＸにてお寄せください。

国土交通省

812-0013
福岡市博多区博多駅東2丁目１１－１
九州運輸局交通環境部消費者行政・情報課
TEL　092-472-2333
EAX　092-472-2316
E-mail：qstf-sgyousei@qst.mlit.go.jp

この情報誌は、バリアフリー関係の話題を中心に、九州運輸局管内の自治体のバリアフリー関係担当部署、交通事業者、バリアフリーリーダー、地域の福祉団体にお送りしています。この配信について、配信先の追加、変更、停止をご希望される方は、お手数ですが本メールの返信機能でご連絡ください。